

教育のページ



学校教育の話題から文化、スポーツ、生涯学習まで市内の教育情報をまとめて紹介します。
大野市教育委員会 ☎0779・66・1111

子どもに読み聞かせを

図書館利用して

市では昨年度策定した「子ども読書活動推進計画」に基づき、各種取り組みを行っています。子どもにとって読書は、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かすことができないものです。子どもの成長に合った質の高い本を選んであげましょう。特に十歳までは読んであげるようにしましょう。

児童書3万5000冊保有

最近、読書習慣の不足やテレビ・インターネット・携帯電話といった情報メディアの普及から、子どもたちの活字離れ、読書離れがますます進んでいると言われています。市が策定した推進計画では家庭・地域・学校・行政が連携し、子どもの発達に応じた質の高い本を届ける取り組みの推進などを計画目標に掲げています。

そこで、図書館でお勧めしている「年代別読書の付き合い方」を紹介します。

▼赤ちゃんから1、2歳まで
本にこだわることはありません。お母さんの知っている子守歌などを歌ってあげましょう。リズムの良い絵本から始めてみましょう。

▼3歳くらいから
昔話絵本が楽しめる年齢です。内容を変えていないもので、絵が内容と合っているものを選んで読んであげましょう。

▼4歳くらいから
科学絵本を楽しめる年齢です。少し複雑な創作絵本も理解できます。さまざまな分野の本を読んであげましょう。

▼10歳まで
十歳までの子どもにとって読んでもらうことが大切です。言葉も物語も、目で字を追うより耳から聞く方が、より深く子どもの心に届きます。また、読み終わった時に安心できる内容の本を選びましょう。

子どもが自由に本を選ぶことも大切です。しかし、子どもが何を読んでいるのか無関心にならないようにしましょう。最近では、ケータイ小説や残酷な内容の小説も多く出版されていて、子どもたちはとても関心が高いので注意が必要です。

ノーテレビデー実施など

子どもにとって読書に親しむ習慣を身に付ける最初の場が家庭です。推進計画では、一週間に一度はテレビを消して静かな環境で読書する「ノーテレビデー」を提唱。特に三歳まではテレビを見せない工夫をしましょう。

図書館では平成十七年から「こねずみ文庫」を実施。七つのテーマごとにセットした本を小・中学校へ貸し出し、総

合学習などに利用されています。また、毎週土曜日に絵本の読み聞かせや古典児童文学作品の朗読会を開催しているほか、おすすめ本のリスト提供や、小学生卒業までに読んでおくといふ本を全部読んだ方に「本の卒業証書」授与などを行っています。

食事同様、毎日読んであげることから始めましょう。本の選び方など分からない方は図書館までご相談ください。
☎ 図書館 ☎65・5500

自分に合う本 見つけて楽しい



小さいころから図書館に通い、将来は図書館の司書になりたいという
廣瀬美都さん
(陽明中1年)

図書館で毎週土曜日にあるお話し会を楽しみに、小さいころから通っています。図書館でもらった推薦リストを参考に、自分に合った本を見つけるのが楽しいです。これまで読んだ本の中では、特に『宝島』がスリルがあって印象的でした。寝る前に本を読むのですが、どうしても続きが知りたくなったら、朝早く起きて読みます。小説などは文字を読んで一人でイメージできますが、昔話は読んでもらう方が、心に残ります。

安心・安全な居場所確保

「放課後子ども教室」始動

市が進める「放課後子ども教室」が五月からスタートしました。これは、小学校の空き教室などを利用して子ども居場所づくりを確保するため今年度から実施するものです。

地域の子どもは地域で

この子ども教室は「地域の子どもは地域で育てる」という考えをもとに、地域住民による実行委員会が主体となって運営するものです。子どもたちは、自分が通う小学校で実施する教室に参加することができます。

開催時間は月曜日から金曜日までの放課後、午後五時三十分まで。利用料は無料です。（材料費の負担あり）

そのほか、放課後子ども教室には次の特徴があります。

▽地域住民による安全管理員が子どもたちの指導を行う
▽小学校の空き教室などを利用するため、授業終了後、



空き教室で読書を楽しむ子どもたち
(5月1日、上庄小)

学校を出ることなく放課後の居場所が確保できる

▽宿題などのほか、体験活動など地域特性を生かしたプログラムが体験できる

なお、児童センターで行っ

上庄、小山の取り組み

ている「放課後児童クラブ」は、保護者の就労などにより保育が必要な低学年児童を対象に引き続き実施。今年度から子ども教室に合わせた利用料が無料となりました。

まず五月から活動をスタートさせたのは、上庄小学校と小山小学校です。ともに地域住民の熱心な取り組みや学校の協力があり、早期に開設することができました。二校の取り組みを紹介します。

上庄小学校

(五月一日開設)

上庄地区では以前から児童センターの設置要望が強く、この事業実施にいち早く着目したPTAが実現に向けて動きました。会長を務める森谷道行さんは「行政と学校、保護者が役割を理解して協力しなければこの事業

はできないと思います。行政は費用面、学校は場所の確保という役割の中で保護者は世話してくれる人の確保が大事と考え、まずやってくれる方を募集しました」と話してくれました。

小山小学校

(五月七日開設)

小山公民館では平成十五年度から「公民館キッズ事業」を実施してきました。この事業では「子どもは地域の宝」として地域住民が協力して土日だけでなく、平日にも太鼓教室などの体験活動を行ってきました。

今回の子ども教室開設を受けて、キッズ事業を引き継いでスタート。体験学習の内容によって近くの公民館も利用しながら、子どもの居場所づくりを進めます。安全管理員の一人、篠原孝康さんは「地域の方から分けてもらったキビを自分たちで栽培して、秋には団子にして食べる予定です。子どもたちの自主性を第一に、いろいろな体験を実施



体育館で一輪車を楽しむ子どもたち
(5月7日、小山小)

その他の校区でも

市内には全部で十二の小学校があります。上庄、小山の各小学校区以外の校区でも、地域住民による実行委員会結成や委員会主体の運営実施に向けた説明会などを実施。放課後子ども教室の開設に向けて取り組んでいます。

また各校区では子どもたちを指導する安全管理員を募集しています。詳しくは社会教育課まで問い合わせください。

教育委員会社会教育課

(☎ 65・5591)



市民のページ

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、
情報広報課まで ☎0779・66・1111

「全体の和」心掛ける



大野大正琴の会は現在、市内に十五の教室があり、会員は約八十人。各公民館などを会場に練習に励んでいます。今回紹介する有終教室は五十代から八十代までの十六人で構成。毎月、第二・第四木曜日に学びの里「めいりん」で練習しています。昭和五十六年の結成以来、現在までに五百曲以上を、曲目も歌謡曲から童謡、民謡と幅広く演奏してきました。

主な活動に、民謡の祭典や市文化祭への参加、十五教室が集まって行われる発表会などがあります。また老人施設やふれあいサロンなどで演奏することもあり、それを聞いたお年寄りがとても喜んでくれる様子にやりがいを感じています。

大野大正琴の会は現在、市内に十五の教室があり、会員は約八十人。各公民館などを会場に練習に励んでいます。今回紹介する有終教室は五十代から八十代までの十六人で構成。毎月、第二・第四木曜日に学びの里「めいりん」で練習しています。昭和五十六年の結成以来、現在までに五百曲以上を、曲目も歌謡曲から童謡、民謡と幅広く演奏してきました。

代表の飯岡啓子さんは「大正琴には高い音のソプラノ、低い音のバス、その中間のアルトの三種類があり、それらを組み合わせると大勢で演奏するのが楽しいですね。指揮者がいないので、みんなで心を合わせないとうまくいきません。一人で上手に演奏できたとしても、全体できれいな演奏になるとは限らずそこが面白いところですよ」と語ってくれました。

「最後まで演奏できたときや演奏会などで大勢の前で演奏したときはとても充実した気持ちになります」「今までに何十曲と演奏してきました、

新しい曲を演奏する時は、また一からの練習になり新鮮な気持ちで取り組みます」と話すメンバーの皆さん。若い人もぜひ一緒に大正琴を演奏してもらいたいとか、まちなかで生演奏などをして、大正琴の音を広めていきたいとも話してくれました。

大野大正琴の会で一緒に練習をしたい方は飯岡さん(☎67・1434)まで連絡してください。





川口 菜絵さん (和泉小3年)

川口さんは、県内の小学校65校から403点の応募があった愛鳥週間用のポスター原画審査会で最高賞の知事賞を受賞しました。作品は5月7日から11日まで、県庁県民ホールで展示されました。

—工夫した点などは

夏休みに家の窓の上にツバメが巣を作っていて親鳥がひなに餌を運んでいたの、ひなが元気に大きく育つといいなと思いながら家族みんなで見ているところを描きました。お父さんから、よく見て丁寧に描きなさいと教えてもらったので、脚立にのってツバメの巣



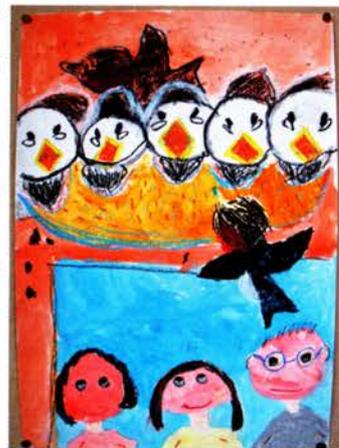
を観察しました。実際に見てみるとツバメのほっぺが赤いことや、ひなが大きな口を開けて餌を待っている様子などがよく分かりました。巣の丸い形とひなに気を付けました。特にひなは、開けている口の中の色が絵の具だと濃すぎたので、クレヨンを使って思ったとおりの色が出るように工夫しました。

—賞を取ってどう思いましたか

賞を取れるとは思っていなかったの、先生から電話で連絡を受けた時は家族みんなでびっくりしました。学校でも友達がすごいねとかおめでとうとか言ってくれたのでうれしかったです。

—これからはどんな絵を描きたい

風景画などを描いたお父さんのスケッチブックをプレゼントしてもらえのが楽しみです。お父さんみたいな絵が描けるようになりたいです。



愛鳥週間ポスターで最高賞
ツバメのひなが育つといいな

洋匡) ぼん入門(柴門ふみ)だから、僕は学校へ行く! (乙武)

【ノンフィクション】
着る女(筒井ともみ) 家計簿の中の昭和(澤地久枝) につぼん入門(柴門ふみ) だから、僕は学校へ行く! (乙武)

新着図書

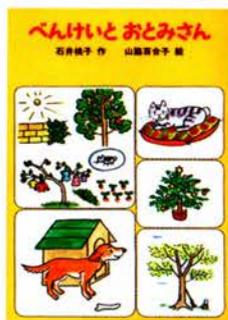
【一般小説】

八日目の蝉(角田光代) 千年樹(荻原浩) 無銭優雅(山田詠美) おねだり女房(宮本昌孝) 玻璃の天(北村薫) 陪審法廷(榆周平)

【児童図書】

花の工作図鑑(岩藤しおい) ウサギが丘のきびしい冬(ロバート・ローソン) お江戸のかぐや姫(那須正幹) 牧場のいのち(立松和平) 風の館の物語I(あさのあつこ)

【絵本】
金鶏物語(ビリービン) ふねにのったねこのヘンリー(エリック・イングラハム) あっぱれアスパラ郎(川端誠) こねこのチョコレート(大社玲子)



読書のススメ

『べんけいと おとみさん』
石井桃子作
山脇百合子絵
福音館書店

本書は電気洗濯機が家庭に普及し始めたころの、一般家庭の日常生活を書いた話です。丁寧であたたかい文章とほのぼのとした挿し絵は、今読んでも少しも古さを感じさせません。四季のさまざまな行事を通して、犬の「べんけい」と猫の「とみ子」が繰り広げる愉快的な物語は、親子で楽しめる1冊です。長い間品切れになっていましたが、今年、著者の100歳の誕生日を記念して限定で復刊されました。



社の外で初神楽

篠座神社で4月21日、地元保存会15人による恒例の獅子神楽が奉納されました。今年は12年に1度の式年大祭の年に当たり、前回の式年大祭で復活した保存会にとって初となる屋外での奉納を、整備された豊明殿前の参道で実施。この神楽を記録したDVDを視聴覚ライブラリーで貸し出ししています。



“ひまわりさん大きくなあれ”

4月26日、ひまわりの種まき会がスターランドさかだにて市内の保育園児など約300人が参加して行われました。阪谷地区の有志で構成する「ひまわり会」が主催したもので、2万粒の種が植えられました。8月上旬には、見ごろを迎える予定です。

旧橋本家火入れ

4月29日、国重要文化財の旧橋本家住宅の一般公開が始まりました。10月31日までの日曜、祝日、振り替え休日に虫や湿気の被害を防ぐため、いろりに火が入れられ、無料で公開されています。



荒島岳山開き

県内唯一の日本百名山「荒島岳」(標高1523m)。荒島愛山会が登山者の安全を祈願する山開きを5月6日に行いました。県内外から登山愛好者20人が参加。安全祈願祭の後、記念登山が行われました。



話題のひろば



写真上 山菜などの食材を買い求める人たち
(山菜フードピア)

同右 平成大野屋番頭の武井藍さんによる
貯筋運動エクササイズ (平成大野屋まつり
2007～春の陣～)

まちなか催しアラカルト

5月12日、13日の両日、七間通りでは恒例の山菜フードピアが、平成大野屋では平成大野屋まつり2007～春の陣～が行われ、まちなかは多くの市民と観光客でにぎわいました。平成大野屋まつりは秋にも開催を予定しています。



武家屋敷で琴の調べ

5月3日、武家屋敷旧内山家で琴の生演奏と抹茶サービスが行われました。訪れた人たちは庭園の景色と琴の調べを楽しんでいました。

湖畔で自然楽校^{かっこつ}

下半原ふれあい湖畔を会場に自然楽校が始まりました。初日の5月5日には市内外から家族連れなど30人が参加。カヌー体験では子供たちが慣れない手つきで一生懸命にオールをこいでいました。





笑顔！で「いただきます」③

ヨモギを使ったおやき



材料 (10個分)

- ・ヨモギ 220g
- ・モチ米粉 160g
- ・ウルチ米粉 160g
- ・あんこ 300g

今後も伝え残したい郷土の味を、食に取り組む市民団体の協力を得て紹介していきます。材料にヨモギを使ったおやきを。

伝えたい郷土料理

達人のワンポイントアドバイス

水の代わりにヨモギをゆでた汁を使うと軟らかく仕上がります。

(食生活改善推進員
連絡協議会

長田佐知子さん)



作ってみよう

【まず】

400mlの水にヨモギと少量の重曹を入れて沸騰させ、アクを取り除いて軟らかくなるまでゆでる。ゆでたヨモギは固く絞って冷ましておく。ヨモギをゆでた汁は後で使うので残しておく

1. モチ米粉、ウルチ米粉にヨモギをゆでた汁を少しずつ加えて、耳たぶくらいの硬さになるまでこね、蒸し器で蒸す(湯気が上がってから20~30分)
2. 蒸し上がったら手水にヨモギをゆでた汁を使い、ヨモギと一緒に混ぜてだ

んごにする。ゴルフボール大に丸めたあんこに合わせて薄く包み、フライパンやホットプレートなどで軽く焦げ目が付くまで焼く



市民のうごき

平成19年5月1日現在

世帯数	12,292世帯 (23世帯)
人口	39,024人 (-46人)
〈男〉	18,626人 (-34人)
〈女〉	20,398人 (-12人)

◆4月中の内訳

転入	89人	出生	15人
転出	112人	死亡	38人

年生約三十人が参加しています。トマトを植えた子は「自分で作ったトマトを食べるのが楽しみ」と話しながら、丁寧に水をかけていました。またある子は「メロンの種をまいて先生に「種って(値段)高いの?」と真剣な表情で質問。作業中の大人や見学していた保護者の笑いを誘っていました(林)



編集後記

南部児童センターキッズガーデンクラブには、同センターを利用している小学一から三年生



青田をわたる風がさわやかな季節。農事暦によれば、水稲の種まきは八十八夜を基準とし田植えは六月の風物になるかと▼ともあれ、大型連休を含むどこか間延びしたよな五月も過ぎ、人も田畑もようやく落ち着いたよう▼さて、四月からリニューアルした広報おおのにも定着のきざしが。最終ページに連載中の「笑顔!で「いただきます」」が好評だ。来年、小学校に入学する子どもを持つ家庭では、休みの日に親子でレシピに挑戦中。「普段は忙しいので、子どもと会話を楽しみながら料理しています。給食のレシピなので予行練習にも」また「このレシピのおかげで、小学生の孫が夕食を喜んで食べてくれるようになった。ありがたい」との声も▼ありがたいと言えどもこちら。このほど市が進める放課後子ども教室がスタート。上庄小、小山小での活動が始まった。子ども教室は、児童の放課後の居場所として学校の空き教室などを活用し、地区住民が安全管理員として指導にあたる。親にとってはもちろん、農作業や通院などで忙しい祖父母にとってもありがたい話。安全管理だけでなく、地区民との世代間交流にも期待がかかる▼青々と茂り始めた水田の若苗のように、こちらも強く根付いてくれれば(羽生)